

第2回かわまちづくり協議会

発言要旨

開催概要

日時：2022年6月7日 13時から14時

場所：木曾川下流河川事務所 会議室

出席者：

顧問	： 伊藤 徳宇	桑名市長
顧問	： 大坪 祐紀	木曾川下流河川事務所長
会長	： 平野 勝弘	副市長
副会長	： 森下 充英	桑名商工会議所専務理事
委員	： 齋木 雅邦	木曾川下流河川事務所副所長
委員	： 佐藤 強(代理：水越氏)	桑名ブランド協議会会長
委員	： 水谷 文人	桑名市観光協会会長
委員	： 佐藤 博之	桑名市商店連合会会長
委員	： 横井 健佑	東部商研会長
委員	： 水谷 将	合同会社くわなラボ代表

1. 開会

2. 挨拶

伊藤顧問、大坪顧問より挨拶があった。

3. 報告

(1) アロハラボの開催報告について

- ・ 令和4年4月17日に柿安コミュニティパークで開催された「アロハラボ(第2回)」は、第1回目よりもブラッシュアップできたと感じている。
- ・ 「アロハラボ」に関しては、参加者の滞在時間が非常に長いと感じており、ロケーションの良い公園で家族とゆっくり過ごすことができているのかと思う。
- ・ 実績については、来場者が約500人、売り上げはキッチンカーが平均5万円、物販については単価がさまざまであるがドライフラワーは3万円程度であった。
- ・ キッチンカーや物販(出店)、ステージイベントなどを実施した。
- ・ 今後も、「女性の活躍の場」として確立していきたいと考えており、子育てや働きながら、夢や思いを持った女性が運営できるような持続可能で、地域のコミュニティツールとして愛される公園になるようなイベントを目指している。
- ・ ハード面については、屋根付きステージやWi-Fi環境、電源等があると、災害時にも活用でき

るのではないか。ロケーションがあり魅力的な公園であるので、ドッグランやバーベキュー施設、ワンデーキャンプとかができる場所であると、人が集まるのではないか。

- ・ 夜の魅力もあると思うので、夜にくつろげるテラス席や、花街や春日神社等にも人が流れるようにライトアップ等をして良いと思う。
- ・ 時期は未定であるが次年度も実施を予定しており、継続実施を目指している。

(2) 住吉浦休憩施設における物販の拡充について

- ・ 本多忠勝のTシャツや、タンブラー、トートバッグ、石取祭グッズ、アイス饅頭等を販売している。東京や千葉からグッズを購入しに来る観光客が増加している。
- ・ ブランド協議会とコラボした御城印も販売している。

(3) プレミズベリング会議の開催報告について

- ・ 第1回かわまちづくり協議会でも議論に上がったような、行政を含めて気軽に様々な意見を出し合う場として、令和4年2月16日にプレミズベリング会議を開催した。
- ・ サテライト会場である七里の渡し公園休憩所とZoomでつなぎ意見交換を実施した。

4. 議事

(1) 分科会の設置について

事務局より、資料2-1：分科会の設置について説明があった。

以下、発言要旨

平野会長：新たに分科会の設置について説明があったが、ご意見、ご質問等はあるか。

齋木委員：構成メンバーについて、協議会メンバーが参加を求める者も追加して良いとのことであるが、どんな方を想定されているのか。

事務局：構成メンバーは、桑名市、と国土交通省（河川管理者）を基幹として考えている。さらに、協議会メンバーであるくわなラボや観光協会等にも賛同いただこうと考えている。今後、協議会メンバーではない方を追加する場合は、協議会で議論したいと思っている。一方で、今後社会実験をする際に民間事業者を公募するので、公募で選定された事業者を分科会に追加することも考えられると良いと思っている。

齋木委員：社会実験を実施したい方を含め、議論していく認識でよいか。

事務局：そのとおりである。実際に社会実験をする事業者を含めることで、議論が比較的活発に進むと考えている。

平野会長：分科会は、目的によって都度結成される形式であるのか。また、結成された分科会は残り続けるのか。

事務局：分科会は将来的に社会実験を繰り返すたびに設立するのではなく、1つの分科会は継続する予定である。しかし、今後新たなニーズが生まれた際に別の分科会を設ける必要性が生じた場合には協議会で議論して追加を検討する可能性は考えられる。

平野会長：そのほか、よろしいか。分科会の設置案についてご了承いただける方は拍手。

(拍手多数)

(2) ミズベリング推進会議の取組について

事務局より、資料 2-2：ミズベリング推進会議の取り組みについて説明があった。

以下、発言要旨

平野会長：ミズベリング推進会議と 2 つの企画について説明があったが、ご質問等あるか。

水谷委員：平成 30 年に川越マルシェがイベントを実施した際に桑名市で実施しているにもかかわらず、桑名市の民間事業者が参加していないことに対しクレームが発生したため、桑名市(地元)の民間事業者を第一に考えていただきたい。

事務局：分科会で議論させていただきますが、地域の方々の賑わいづくりだと考えておりますので、そのようなスキームとなるように、桑名市と調整・協議させていただきたいと思っている。

森下副会長：民間事業者については、商店街連合会や商工会議所等でも多くの会員がいるので、いつでも声掛けはさせていただく。必要であればご相談頂ければと思う。

森下副会長：秋季の社会実験の企画についてだが、面白いと思う。商工会議所でも「商工まつり」を市内で実施している。今年度 10 月に、本多忠勝や千姫などの桑名の歴史を象徴するイベントを開催することについて、桑名市と調整している。このイベントを協議会が実施する社会実験と並行してできないかと考えている。

齋木委員：これは時期を固定してあるわけではないのか。

森下副会長：占用許可申請等も未申請であるため、早めに開催日を確定しなくてはならないと考えている。

平野会長：商工会議所からのご意見は、桑名市とも一緒にイベントを作っていくため、実行委員会も含め立ち上げるところであるため、その中で協議させていただけたらと思っている。イベント検討の背景としては、本多忠勝が創った桑名市であるのに加え、千姫が桑名へ嫁ぎ、本多忠刻と出会った町であり、NHK に大河ドラマ誘致に向けて機運の醸成をしていきたいということである。このイベントで地域の賑わい創出を考えているため、今後、協議会とともに、内容を具体化し検討させていただけるとありがたい。

事務局：分科会の中でイベントを実施する形式にするのであれば、今後分科会で、実行部隊として具体化できると思う。改めて、桑名市を通じて情報を確認させていただきたい。

齋木委員：社会実験には特定の目的や、民間事業者等が確定していないという認識であるが、その場合、公募において、プレミズベリング会議のニュースレターでまとめられているような利用者ニーズや利活用アイデアなどを提示することで、民間事業者等も声を上げやすくなるのではないかと考えている。

事務局：引き続き、民間事業者の公募については、桑名市より説明があると思うが、提案いただいた内容について調整・検討させていただく。

森下副会長：今回社会実験の対象としているエリアで、かつてイベントを実施してきている。

齋木委員：利用者のニーズや実際に実施された方がいることは非常に心強い。

森下副会長：商工まつりは、商工会議所の会員のお店を紹介することが目的のイベントであった。しかし、今回のように水辺空間の利活用の視点が入っていると BBQ などを同時期に実施できるとこれまでとは異なった利用方法が見つかるのではないかとと思う。

平野会長：様々な企画や団体等の思いがあるようだが、今後ミズベリング推進会議の分科会等で話っていくということでよろしいか。ミズベリング推進会議の取り組みについて、承認いただける方は拍手。

(拍手多数)

(3) 地域の持続的な賑わいを作る民間事業者の提案事項等について

事務局より、資料 2-3：地域の持続的な賑わいを創出する民間事業者の提案募集等について説明があった。

以下、発言要旨

平野会長：ご意見・ご質問等あるか。

ブランド協議会：確認だが、民間事業者の公募というのは、かわまちづくり協議会の分科会への参加者を公募するという話か。それとも全く別の話か。

事務局：資料 2-2 の内容の、分科会に参加される民間事業者の募集に係る手法の 1 つとして提案している。

ブランド協議会：先ほどの秋季の社会実験企画で、出店者は公募により選出すると記載があったが、その公募方法に関する説明ととらえてよいか。

事務局：この手法もあるという意味である。

ブランド協議会：説明いただいた資料の「4.事業の実施」にある分科会というのは、かわまちづくり協議会の分科会とは別物であるか。

事務局：同じである。

齋木委員：どういった社会実験とするのか、分科会で議論・整理する必要があると思うが、場合によっては並行して棲み分けを明確にしながら実施する手もあるのではないかと思う。勝手な理解かもしれないが、予定している社会実験の方向性が明確になっていない段階で、桑名市が実施しているのは、民間事業者が社会実験を創造していく感じであり、ハードルが高い気がしている。小さな商店とかでも社会実験に参加しようと思えば参加できるのか。そこまでは、考えていないのか。

事務局：参加できると思っている。

齋木委員：ある程度の規模を持った企業でないと、ここまでの取り組みは難しいのではないかと思う。分科会での議論になるかと思うが、試験的に実施してみながら社会実験を固めていくということでもよいかと考えている。

ブランド協議会：分科会のメンバーの募集方法であるのか、もしくは、秋季の社会実験への参加企業の募集であるのかが明確でない気がする。

事務局：補足をすると、この地域で持続的にある程度採算も組めた形での賑わいづくりと事業継続ができるスキームを持たれている方から話をいただいたこともあった。その方はハード面も含め、自ら負担することを了承していた。そういった内容も踏まえて議論する場として、コラボ・ラボを活用していただきたい。コラボ・ラボや商店街連合、商工会議所を通じて、民間事業者への呼びかけをするとなった場合においては、まず、イベントの主旨やアウトラインを共有しておく方がよいかと思う。

ブランド協議会：別ということでもよいか。

事務局：そのとおりである。社会実験までのイベントと、資料 2-3 における募集方法は別の提案と考えている。国土交通省でもそういった公募方法を採用することであれば、桑名市でコラボ・ラボを窓口として活用することは考えてもよいと思っている。

齋木委員：国土交通省が単独で公募することはなく、あくまで桑名市と連名で実施することとする。国土交通省で民間事業者を許認可することは非常に難しい。

平野会長：国土交通省が直接民間事業者を許認可するのではなく、委員や分科会や桑名市から民間事業者の提案があると良いと考える。

地域の持続的な賑わいを創る民間事業者の提案募集等についての手法だが、ご提案いただいた手法について承認いただける方は拍手。

(拍手多数)

(4) 「(仮称) 桑名新花火大会」について

事務局より、資料 2-4：「(仮称) 桑名新花火大会」について説明があった。

以下、発言要旨

平野会長：「(仮称) 桑名新花火大会」はコラボ・ラボで民間事業者から提案いただいた意見であるが、実施主体としてどのように運営するのかという位置づけはどのようにお考えか。

事務局：開催主体としては、実行委員会の中で、地元企業や地元団体となっているが、ここにかわまちづくり協議会として分科会を設置し、分科会も加わりながら実行委員会の一部として取り組めたら良いと思っている。

平野会長：分科会で「(仮称) 桑名新花火大会」についても協議していくという提案で良いか。

事務局：その通りである。

平野会長：今の説明に質問があるか。

ブランド協議会：ご説明いただいた内容は、今年の花火大会のことか。それともこういう事例のように民間スタイルに変えていきたいという話なのか。それとも花火大会の運営をやりたいという民間事業者がいるという話なのか。

事務局：今回、提案いただいた民間事業者はサンデーフォークであり、7月30日に開催される桑名市水郷花火大会とは別物である。実施における提案の1つとしてこういった意見をいただいた。民間事業者が河川空間を占有するのは難しい場合もあるため、かわまちづくり協議会を活用して、収益ベースの民間事業としての展開ができないかという内容である。

森下副会長：民間事業とした場合、現在の共催者である桑名市や観光協会、中日新聞についてはどうお考えか。その3者が民間事業としての実施を検討するため協議会で議論することはよいと思うが、3者の考えがわからない状態のまま協議会で議論するのはどうか。今の桑名市水郷花火大会の主催者の意見を無視し、協議会で議論するのはいかがなものか。主催者が継続して実施していくという考えであるのであれば、民間事業に変えなくてよいのではないか。急ぎの内容でないのであれば、まずは主催者の意向を確認してみてもいいのではないか。

齋木委員：河川管理者の視点から言わせていただくと、花火大会は危険を伴うため、本来は許認可の審査の上、実施が決定されるものである。その場合に、花火大会の主催者に協議

会が含まれていた場合、問題発生時の対応等について慎重に検討する必要がある。また、民間事業者による運営ということであれば、通常は許認可での対応となるため、占用者として適切であるかどうか事前判断する必要がある。また、通常の社会実験に当てはめていいのかどうかという議論もある。

平野会長 : 今コラボ・ラボの窓口にそういった提案があがってきているという状況であるが、スケジュール的に協議会で承認するとか、事業として実施していくにはもう少し調整が必要かと思う。本日は、民間事業者により花火大会の実施の提案があったという報告程度という形にしておく。

5. その他

水谷委員 : 7月7日の「水辺で乾杯」イベントであるが、商工会議所や観光協会との連携はもちろんだが、個人的な意見としては、桑名市のVIPな方たちと一緒に乾杯してもらえると桑名市が1つになったみたいで、魅力的なイベントとなると思う。

事務局 : 実際に参加者への声掛けについても考えていきたい。

水谷委員 : 皆さんで乾杯とあるが、飲み物は販売されるのか。それぞれの持ち込みなのか。

事務局 : 具体的には決定していないが、参加者の有志にも持ち寄りいただきたいと思っている。くわなラボとも相談しているが、店舗を構えることと販売を併用してもいいと考えている。今後分科会でも具体的に確定していく。持ち寄りの形式となれば、具体的な内容について事前に案内させていただくので、案内に沿ってご協力いただきたい。

6. 閉会

事務局により、閉会の挨拶があった。

以上